

天文班新聞

編集者 天文班
1学年 班員

高校生天体観測講習会

2月14日に行われた高校生天体観測講習会では、神奈川県立青少年センターで講師の方々に望遠鏡の扱い方、CMOSカメラによる惑星の撮影、画像処理などの技術を教えていただいた。望遠鏡は本校にあるものと同じ会社のものがあり、正しい使い方を伝授してもらうことができたので、これからの天体観測はより綺麗な星を見ることができそうだ。画像処理ではCMOSカメラと呼ばれる、暗い光を効率的に記録できるカメラを用いて撮影をし、PC上で画像の明暗度や解像度などを処理した。PCで画像を処理する際に用いたソフトは全てフリーソフトであり、お財布にも優しいため、控えめに言って最高だ。なかなか教わることでないことを学べるとても良い機会だったので、余すことなくしっかりと活用できるように活動したい。より有益な情報を得たり、センターの方々の力になれるよう、またボランティア活動や講習会に参加したい。



処理前の画像



処理後の画像

春分

3月 MARCH

今月の空

- 3/2 月とレグルスが並ぶ
レグルス食
(20時半頃～21時半頃)
- 3/3 満月 皆既月食
- 3/6 月とスピカが並ぶ
(21時半頃～明け方)
- 3/11 下弦
月とアンタレスが並ぶ
(午前2時頃～明け方、南東の空)
- 3/19 新月
- 3/20 春分
月と金星が並ぶ
(夕方、西の空)
- 3/23 月とすばるが並ぶ
- 3/26 上弦
月と木星が並ぶ
- 3/27 月とポルックスが並ぶ
- 3/29 月とレグルスが並ぶ

今年の春分は3月20日にやってくる。春分では太陽は真東から昇り、昇った太陽は天の赤道（地球の赤道を宇宙まで伸ばしたもの）を通過する。そして、真西に沈む。太陽が天の赤道を通過するため、太陽は赤道の真上にあることになる。すると、地球の半分が昼、もう半分が夜になるのだ。それだけではない、春分ごろからは春の大曲線、春の大三角を見ることができるといえる。春の大曲線とは北斗七星、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカの順に結んだ時に生まれる大きな弧状の星の並びのことで、春の星座を探すときの目印となる。春の大三角は同じく、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカ、しし座のデネボラを結んでできる大きな三角形。こちらも同様に春の星座を探す目印となる。しかし、春は一等星が少なく全天に21個ある一等星の中で3つしか見ることができない。比較的気温も暖かくなってきたので、じっくりと時間をかけて空を見て見るのも良いのではないだろうか。

3月14日ごろにはじょうぎ座γ流星群（γノルミッド流星群）が極大を迎える。しかし、この流星群は南半球で見やすい流星群であるため、日本では1時間に数個見られるほどである。14～23日は細い月であり、月光があまり邪魔をせず、比較的星が見やすいので夜空を眺めてはいかがだろうか。家のベランダで見える場合、花粉症の方は家の中に花粉が入らないよう注意しよう。

3月の天文イベント